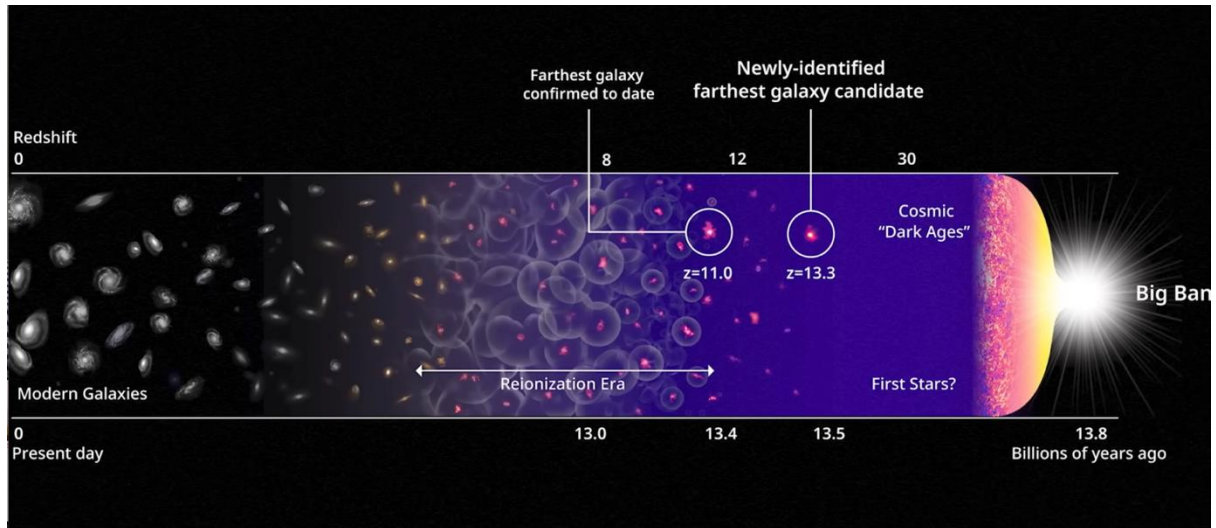


## 事務所スタッフ独り言

福原：独り言 多過ぎると久保が言い  
と言う訳で話題三つ、

## JWTS その2

JWTS がまた騒然となる発見をしたらしい  
宇宙はビッグバンで誕生し、138 億年前あたりとされている

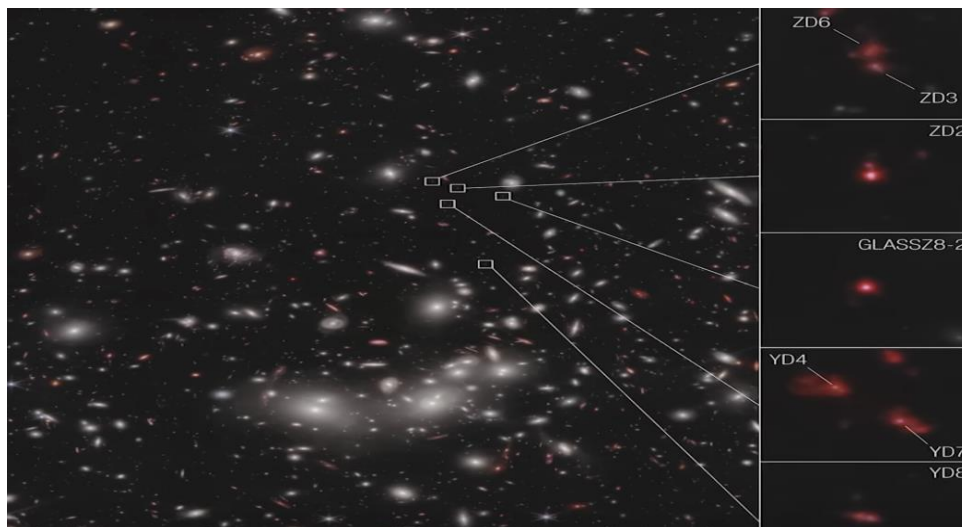


現在

138 億年前

138 億光年先の光を捉えることは 138 億年前の過去の姿を見ていることと同じ  
それはビッグバン前後の過去で宇宙は出来立てホヤホヤで星など未形成の世界のはず（つまり赤ん坊）  
JWTS は 131 億光年彼方を捉えた  
そこにあったのは銀河宇宙（大人）でした  
131 億光年先はまだ赤ん坊か乳幼児程度の世界のはずが、大人がいた  
NASA も ESO も ???  
ビッグバンは本当か？

## JWTS が捉えた 131 億光年先にある銀河



JWTS は次に何を我々に提示して見せるのか  
話題は尽きず宇宙の謎は深まるばかり

## 多過ぎる：その2、吉村妃鞠ちゃん

知っている方も多いでしょうが語らずにはいられない、そう、バイオリン奏者。

識者に言わせると「モーツァルトを超えている」らしい

自分としては辻井伸行以来の心揺さぶる表現者

2011年生まれだから現在12歳、7歳時にベルギー国際音楽祭で審査員を泣かせて優勝。

以来大変なことに

それより何より、この人の演奏を聴いてほしい

さほどバイオリンに興味深い訳でもないが、その音色は心に響き、誰もが何かを感じるであろう

上手とか技術的な演奏とかではなく、魂を揺さぶる何かは伝わってくる

彼女の音色は不思議に入り込んで来て、まれなるその演奏は審査員を涙ぐませ、素人にもそれを伝える力がある

天才と騒がれるが、天才たらしめるのは納得いく音になるまで練習をやめない継続力（毎日5時間以上弾き続けることは凡人には不可能だ、そこが天才）と聴き分ける情感力（これも天才）あってのこと

バイオリンを弾く時の妃鞠ちゃんの目は一点の曇りなく音を見抜いている

12歳の現在は音を心で聴き分けるのか目を閉じる場面が増えた

辻井伸行の演奏会を聴きに行ったことはないが妃鞠ちゃんは是非出かけてみたい

2024年の演奏会チケットは全て抽選だろうなあ

先日、報道ステーションで紹介されたらしい



## 多過ぎる：その3、またも井上尚弥

フルトンをあっけなく葬った井上尚弥は12月26日、なんと2戦目で4団体統一に臨むことに  
相手はタバレス、フィリピンのこちらも2団体統一の王者

スーパー・バンタム級 No.1 かと言われたアフマダリエスを破っての強者、油断はならない  
とは言うものの識者の見方は一方的で井上の4団体統一は時間の問題としている  
果たして番狂わせはあるのかに尽きるが事実上の No.1 だったフルトンを一方的にしかも TKO で下した井上に死角はないと言える



#### れれ：その4

目黒高校が30年ぶりくらいに東京決勝を制してラグビー全国大会出場を果たした  
自分が学生時代、目黒には梅木という鬼監督がいて負けるとグラウンドを、膝つき一周をさせていた  
それで一時期、目黒時代も築いた。なつかしい時代のなせる業。今の帝京大学ラグビーがあるのもこの  
時代があればこそかもしれない。負けた久我山も宿敵ではあった。当時は我々（大東文化一高）が強か  
ったのだけれど今はなあ！